



秩父市コミュニティ・スクールだより

「地域とともにある学校」を目指して

No.15

コミュニティ・スクール 成果と課題

平成 30 年度の秩父市におけるコミュニティ・スクールの取組について、各校でまとめてもらいました。（※以下はその概要です。）

学校運営協議会の実施について

- 開催数は、3～7回で、3回開催の学校が最も多かった。
- 会議の参加者は、委員の他に、学校から1～3名（事務局）同席する学校が多かった。
- 会議は公開を原則としているが、傍聴人はいなかった。

成 果

- ◎ 学校の日々の取組の成果を評価していただくと共に、更なる協力や支援の申し出を得た。
- ◎ 学校運営協議会で「熟議」を図ることで、地域の学校への理解を深めることができた。
- ◎ 地域への情報発信（ホームページ、たより等）への高い評価をいただいた。
- ◎ 「学校運営の基本的な方針」に対する意見交換から、ビジョンや目標の共有を図ることができた。また、より親身になって学校運営に力を貸していただけるようになった。
- ◎ スクールガードの募集をかけたところ、大幅な増員ができた。
- ◎ 学校運営協議会を中心とした組織体制になり、各委員会に「地域とともにある学校」という意識が強くなり、より建設的な意見が出されるようになった。
- ◎ 特色ある教育活動の実施に当たり、運営の方針や在り方について「熟議」することができた。また、その結果を学校行事の運営やPTA活動に活かすことができた。
- ◎ 委員からの情報提供によって、通学路の整備につながった。
- ◎ 小・中学校の校長が、互いに学校運営協議会の委員になることによって、それぞれの教育活動についての理解が深まった。また小・中学校の委員の交流の和が広がった。
- ◎ 学校運営協議会の意見を参考に、地域の見守りボランティアを設立できた。
- ◎ 地域の教育資源・人材を活かし、地域に根ざした教育活動を行うことが重要であることを再確認することができた。
- ◎ 小・中連携の充実が図れた。

この「たより」は秩父市の皆様に、「コミュニティ・スクール」を知ってもらうためのものです。

課題

- ✓ 学校運営協議会委員の方々が、どのように学校行事や教育活動に関わっていただけるのか、役割を教育計画等に位置づけるなど明確にしていくことが課題である。
- ✓ 教育課題について熱心に協議していただいた。「熟議」までには至らなかったため、今後課題を絞って「熟議」できるようにしたい。
- ✓ 小・中学校間での情報交換や連携を図ること。
- ✓ コミュニティ・スクールを地域に広く広報し、周知徹底を図る。
- ✓ 話し合いで終わってしまわずに、地域のコミュニティの一員を育成するために行動を起こす。
- ✓ 来年度は開催数を増やしたり、支援していただく在り方を考えていきたい。
- ✓ 「熟議」の時間が30分程度しか確保できなかったため、話し合いの時間が足りなかった。
- ✓ 生徒数減少に伴う持続可能な学校・PTA活動への転換
- ✓ 小・中合同学校運営協議会の検討
- ✓ 地域住民や保護者の要望や意見を、どのように取り上げ、反映させていくか。

成果、課題共に、以下の視点によるものが多くありました。

- ◇ 学校、家庭、地域におけるビジョンや目標の共有
- ◇ 地域の支援、協力による学校の教育活動の活性化
- ◇ 学校における地域への貢献と学校への信頼の高まり
- ◇ 学校運営協議会を中心とした組織づくりと役割の明確化
- ◇ 小・中学校の連携
- ◇ 学校におけるコミュニティ・スクールに関する広報活動と地域住民への周知
- ◇ 「熟議」の大切さと実施の工夫
- ◇ 地域住民の声をどのようにして取り上げ、コミュニティ・スクールに反映させるか。

秩父市では、今後も「地域とともにある学校」を目指して取り組んでいきます。



秩父市教育委員会学校教育課

電話 0494-25-5228 ホームページ <http://www.city.chichibu.lg.jp/1900.html>